

## まちづくり活動計画書

## 1 助成を受けようとするまちづくり活動について

団 体 名	フェーズフリー（平時と有事をワンセット）な防災企画チーム
まちづくり活動名	日常のまちづくり活動に非常時の共助を合わせ織り込む活動
活動地域	緑区鳴海学区内 上汐田自治会をベース拠点に鳴海駅の周辺エリアで活動
活動の背景	<p>（団体の立上げのきっかけや活動に至る背景をアピールしてください。） 鳴海駅周辺は過去に扇川の氾濫で床上浸水を2度も経験し水害へ危機意識は高いし、予想される東海・東南海地震の震災も非常に危惧される。しかしながら、我々は自主防災活動を<b>継続して</b>実施する事ができない。</p> <p>そこで、全国の活動を調査する中で、「<b>フェーズフリー</b>という概念、平常時と災害時を分けない施策」にヒントを得て、<b>日常</b>の見守り活動や清掃・草刈り等の地域まちづくり活動の取組み方をちょっと工夫し、同時に<b>有事</b>の災害にも備えることができるように活動を企画・検討した。</p> <p>昨年度は、スタートアップ部門に採択していただき、有志メンバーと協力して草刈り活動を毎月実施しながら、LP ガス発電等の防災対策について協議した。今年度は、さらに本活動を発展させていきたい。</p>
目的・目標	<p>（活動の目的と、活動により実現したい目標及び成果を具体的かつ簡潔にご記入ください。）</p> <p>■ 目的 自主防災力の強化を、継続的に進める事は難しい。平常時に定例的に実施している清掃・草刈りや祭礼行事を工夫してワンセットで自主防災活動を継続的に実施することを目的とする。</p> <p>■ 目標 備えない防災「<b>フェーズフリー</b>」の取組みを見てもらい、共感を得た地域住民に浸透して、共助・自助の輪を広げること。負担にならず、継続的に取り組めることを理解してもらう。</p> <p>■ 成果 清掃・草刈りや休憩ベンチ作り等のまちづくり活動にも工夫を凝らすことで、地域の自主防災力の強化を進める基礎ができ、同時に、<b>住民の憩いの場</b>が整備されることで、コロナ禍で途絶えた交流する機会が増えること。</p>
活動内容	<p>（上記の目的、目標に沿って、活動内容や実施方法を、具体的かつ簡潔にご記入ください。）</p> <p>・鳴海駅周辺には、多数の自治会や子供会が存在するが、本活動は自主的な独立した活動であり、これらの機関の予算を使って行うものではない。</p> <p>① フェーズフリーを象徴する<b>LP ガス発電を利用して公園の草刈り活動</b> 昨年度と同様に、メンバー間の交流の場として今年度も定期的実施 特に夏場は雑草が繁茂するので、子供達の安全を確保するため重要。</p>

活動内容	<p>② 防災かまどベンチの自作活動 扇川公園には休憩するベンチがないので、平常時用にはベンチであり災害時には炊出し用のかまどとして活用できる<b>フェーズフリーな防災かまどベンチを自作</b>する。市販品もあるが高価なので自作する。<b>公園は憩いの場</b>として、地域住民が交流して共助の下地作りとする。</p> <p>③ 防災の土のう袋を利用した花壇の設置 公園や家庭でも設置可能の<b>土のう花壇</b>を見聞用に設置して、平常時も災害時も利用できる事例として紹介する。家庭で身近な話題を利用。</p> <p>④ 地域の祭礼行事も実施方向で準備されているので、住民が交流する場を利用して<b>LPガス発電等を実見</b>してもらいながら広報活動に努める。</p>	
活動予定期間	令和5年6月 ～ 令和6年2月	
助成金交付申請額	100,000円	※1回目（上限5万円） ※2回目、3回目（上限10万円）

## 2 まちづくり活動の視点

以下の視点で活動内容についてご記入ください。

<b>審査基準① 必要性</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域に根ざしたまちづくり活動内容か</li> <li>・自分たちの住んでいる地域を住みよい環境にする活動か</li> <li>・活動の実施にあたって、まちづくり活動助成金が必要な活動か</li> <li>・活動メンバーのみの趣味や仲間づくりではなく、多くの人に理解や共感が得られる活動か</li> </ul>
<p>(活動の必要性について、上記観点から分かりやすくご記入下さい。)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・当地域の住民は、2度も床上浸水を経験しているので災害への危機意識は高く下地はある。</li> <li>・しかし、自治会活動は2年の任期交代制なので、自主防災対策は後回しになっていた。</li> <li>・一方、自主的に青パトや通学見守り隊、公園の清掃、草刈りや庭木の剪定等のお手伝いを実施するバラバラの活動は存在していた。個別のまちづくり活動を集合させる下地がある。</li> <li>・既存の自治会や子供の会の活動とは分離して実行し、これらの予算を使用することはない。自主自立的で地域横断的な活動に助成制度が活用できれば、すぐに着手できる。</li> <li>・本活動の「<b>平時と災害事をワンセットで考える手法</b>」は、自助や共助への応用範囲が広いので当地域を発信源により多くの人に理解や共感を得ることができると考える。</li> </ul>	
<b>審査基準② 実現性</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・活動内容が具体的になっているか</li> <li>・活動内容の資金計画などは妥当か</li> <li>・人員や規模などは妥当か</li> </ul>
<p>(活動の実現性について、上記観点から分かりやすくご記入下さい。)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・活動内容は、住民の共感と達成感を大切に、今年度は以下に焦点を絞って進める。</li> </ul> <ol style="list-style-type: none"> <li>① フェーズフリーの分かり易い事例としてLPガス発電機を利用して公園の草刈り活動昨年度も毎月実施しており、活動後の交流が大事なコミュニケーションの場になる。</li> <li>② 公園の清掃・草刈りだけでなく、ゆっくり休憩できるベンチが存在しないので、平時はベンチで利用し、災害時には炊出し用かまどに活用できる<b>防災かまどベンチ</b>をメンバーで協力して自作する。市販品は高価なので、廃木材や集水枡等で設置する。</li> <li>③ 鳴海消防団に依頼して、地域住民向けの防災訓練を9月頃に計画している。その機会を利用して、フェーズフリー防災の事例をちらし配布やLPガス発電の実演で見聞し理解してもらおう。10月以降も、地域の祭礼行事が続くので工夫して広報する。</li> <li>④ 公園の憩いの場を上記の防災ベンチの他に<b>防災用の土のう袋で花壇を設置</b>する。公園・家庭でできる防災活動のキッカケになるように、啓蒙活動として取り組む。</li> </ol>	

- ・ 活動内容の資金計画は、費用対効果を考えながら以下の3点に工夫しながら支出する。
  - ① 市販品の防災ベンチは30万円前後と高価なので、DIYの得意なメンバーで自作する。
  - ② インターネット・図書館で防災情報をほぼ無料で入手し、必要な書籍のみ購入する。
  - ③ 活動結果を分かりやすい表現方法に留意しながら資料作成し、印刷費の節約に努める。
- ・ 本提案を実施するためには、8名程度が適当である。各メンバーの人脈を通じてバックアップしてもらえる人数は50名ほどになる。鳴海駅周辺の自治会が協力先であり、当地域の300世帯程度がモニター先になり妥当である。

**審査基準③** ・ 今後の活動の発展にむけての視点や計画があるか  
**発展性** ・ 活動実施後に、地域のまちづくり活動にどのような波及効果を及ぼせるか

(活動の発展性について、上記観点から分かりやすくご記入ください。)

- ・ 発展に向けての視点と計画  
 コロナ禍の影響で人と人が交流する場がなくなってしまい、地域防災力の要であるコミュニティ機会の欠如が心配される。  
 5月に2類から5類に変更になり、我々の生活も3年前に少しずつもどりつつある。一方、日本各地で大きな地震が頻発しており自主防災力の強化はゆっくりしてられない。  
  
 平時と有事をワンセットで考える「フェーズフリー」の取組みに共感する地域住民の輪を広げるために、再会される地域行事の機会を積極的に利用して理解活動を計画している。  
  
 鳴海消防団とのパイプ役がLP事業者と自治会役員も兼ねるので、初年度の草刈り中心の活動から、防災訓練や祭礼行事などの機会を活かした地域住民への浸透が期待できる。
- ・ 地域のまちづくり活動への波及効果  
**フェーズフリーという概念はまちづくり活動の今後の発展に大きく寄与するものと期待している。**  
 リソース不足で自主防災計画が進んでいない自治会や中小企業でも容易に取り組むことができる。  
  
 コロナ禍の影響で自宅にひきこもる生活に慣れてしまった感がある。地域で助け合うという気持ちが薄れつつある。本活動で他人を思いやる心を忘れないようにまちづくり活動を発展させたい。  
 本活動がヒントとなり、**他のまちづくり活動を展開する団体も増えていくことを期待している。**他との交流の場が刺激になり、より大きな波へと発展することができる。

3 活動にあたり他団体（町内会、自治会他）、企業、行政の部署など協力する又は調整を図る必要がある場合には、その名称と内容を記入してください。既に連絡等を取っている場合にはその日付も記入してください。

名 称	内 容
緑区役所 総務課 地域防災担当	地域の防災計画 避難所の収容人数等、
緑政土木局 緑土木事務所	扇川の警戒水位情報、排水ポンプ場の能力
緑消防署、鳴海消防団	防災訓練の実施、必要防災備品の点検等
スマホ活用の情報提供窓口	スマホの防災アプリ、非常時の安否確認等
LP ガス事業者、高層ビル、自動車学校等	非常時の施設・避難場所利用の依頼検討

※第2号様式は3ページ以内でご記入ください。用紙の大きさは、日本産業規格A4とする。

## まちづくり活動の実施スケジュール

・活動の実施日だけでなく、それに向けた準備（団体の打合せ、広報）についても具体的に記入してください。

・1ページにおさまるように記入してください。

年	月	活動項目	活動内容
2023	4	活動内容の方針検討	「フェーズフリー」を活動方針に、2回目として具体的に取り組む内容の検討
	5	申請書の作成	スタートアップ部門（2回目）として申請書をメンバーと協議して作成
	6	助成決定後に キックオフ検討会	年間計画に基づき担当を分け内容の協議
	7	扇川公園・汐田公園 の清掃・草刈り	昨年と同様にLPガス発電機を活用して地域の扇川公園・汐田公園等の草刈り雑草が繁茂する8月～12月毎月1回実施
	8	防災ベンチ作り	平常時は公園ベンチで、災害時には炊出しの防災かまどに活用できるベンチの自作
	9	鳴海消防団による 防災訓練時に広報	防災訓練の実施を消防団に依頼し、参加者にフェーズフリーの内容を理解してもらう
	10	鳴海神社祭礼時に 地域住民に広報	地域のお祭りが3年ぶりに再会する予定地域住民の交流する機会を利用して広報
	11	公園に防災花壇整備	防災に関連した土のう袋を利用して花壇作り 公園・家庭でできる防災対策を検討
	12	冬期剪定と芋焼き	樹木の剪定、枯葉清掃を兼ねて防災かまどで芋焼きの実施
2024	1	左義長祭りで広報	公民館前のどんど焼きに合わせて広報
	2	活動内容のまとめ →活動実績報告書	2月末までに、活動実績報告書を提出
	3	次年度に向けた 活動計画の策定	次年度の活動計画を立案 中期的な実行計画の検討（3年程度）

備考 用紙の大きさは、日本産業規格A4とする。

## まちづくり活動の予算書

## 1 支出

計画書の活動における支出（予算）をご記入ください。

費目 手引きの費目を参照	活動項目	内訳・算出根拠	金額 (円)	
<b>まちづくり活動助成金（申請金額）</b> ※活動経費の内、助成対象となる経費が対象です。 ※上限金額：1回目は5万円、2回目、3回目は10万円			100,000	
活動経費の内訳	消耗品費	本活動の 検討資料作成	コピー用紙、ファイル、封筒、付箋等	5,000
			印刷用のインクジェットの補給インク	4,000
		草刈り作業備品	軍手、かま、ゴミ袋等	4,000
		防災花壇作り	土のう袋、レンガ、培養土、花の苗	8,000
		防災かまどベンチをメンバーで 自作 2台	廃木材を利用して座面を組立 釘、ビス、ペンキ、刷毛等製作部品代	5,000
			かまど兼ベンチ台は集水枡を切削加工	15,000
			集水枡、耐火レンガ、モルタル部品代	9,000
			火格子部は鉄筋を切断し溶接加工 鉄筋、切断刃、溶接棒、溶接機レンタル代	6,000
			ベンチの設置床面の基礎工事 モルタル、アンカーボルト、鍵等部品代 (上記は工具レンタル費+消耗備品含む)	
	印刷費	イベント茶菓子	参加した子供へ駄菓子	5,000
広報活動 広報用チラシ 説明用テキスト		チラシ印刷 300部 テキスト印刷 50部	16,000	
物品費	活動の電子記録	USBメモリー2ケ (作成書類用、デジカメ記録用)	5,000	
資料費	参考資料の購入 関連書籍	自主防災の参考になる参考図書 図書館、ネットで入手できない情報 5冊程度	10,000	
賃借費	検討会の会場費	公民館の会場利用代 1000円/半日×5回	5,000	
その他経費	本活動の草刈り 作業に限定した ボランティア保険	500円/人×6人 7月～12月 毎月 名古屋市社会福祉協議会の窓口へ ボランティア活動保険を申請	3,000	
支出合計			100,000	

※1ページにおさまるよう記入してください。用紙の大きさは、日本産業規格A4とする。